

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 29 年 1 月 15 日現在

(専技情報より抜粋)

◇麦類◇

播種適期である 12 月上旬までに 9 割の播種が終了しています。11 月中旬以降は気温が低く生育が遅れ、11 月下旬播きは 3 葉期でこれから麦踏みや土入れが行われます。12 月上旬播きは 2 葉期で、3 葉期に達した時点で麦踏みを行いましょう。播種後の低温少雨により雑草の発生は遅くなっています。追肥を施用し、土入れ、麦踏み、排水溝の整備などを徹底しましょう。雑草の発生が多い場合は適期に対策を行いましょう。

◇施設キュウリ◇

10 月中下旬定植の促成作型は 11 月下旬以降が寡日照で経過したため、草勢はやや弱めで、生育は停滞気味です。花数は少なくなっております。アザミウマ類及びうどんこ病が発生しており、半促成作型は 1 月下旬から順次定植が始まる予定です。日中のハウス内温度の確保、こまめなかん水、炭酸ガス施用等により草勢維持に努めましょう。灰色かび病、菌核病の発生を抑制するため、草勢や温湿度管理に注意しましょう。

◇冬春ナス◇

11 月下旬以降寡日照で経過したため、草勢はやや弱めで生育は遅れています。花数は増えてきていますが花質は若干悪くなっています。出荷量は 1 月下旬頃より増えてくる見込みです。灰色かび病、菌核病及びコナジラミ類、アザミウマ類が発生しています。2 月中旬までに不要な芽を整理しましょう。生育促進のため、ハウスの保温性向上に努め夜温を確保するとともに、昼間のハウス内気温を 28～30℃に保ちましょう。病害対策を徹底しましょう。

◇温州ミカン◇

普通温州を出荷中です。果実品質は糖度・減酸ともに平年並。出荷量は平年より少なく、貯蔵果実の出荷は 2 月までの予定です。1 月上順までの温州ミカン全体の出荷進捗率は 9 割程度です。貯蔵果実の管理は庫内温度 3～5℃、湿度 85%を目安に、天候や果皮の状態に応じて換気を行いましょう。定期的に庫内を見回り、腐敗果の除去を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

秋出荷作型（10～12月出荷）の出荷量は、寡日照によるブラスチング（花蕾の枯死）発生により、出荷期が遅延したため減少しています。春出荷作型（3～4月出荷）の生育は、概ね順帳に生育し、9月定植分は2次小花、10月定植分は1次小花が発蕾しました。萎凋病が多発しています。10月定植分は早めに1次小花を取り除き、不必要な側枝を除去してブラスチング対策を徹底しましょう。萎凋病、灰色かび病対策として、換気等の湿度管理を徹底しましょう。

◇肉用牛◇

12月の枝肉価格は好調で和牛虚勢は10月以降の堅調な価格上昇を引き継いで前年同月並の水準を回復。交雑種見合いの省令価格は過去5年平均を下回る水準から5月ぶりに脱却した。厳寒期となり子牛の防寒対策を徹底しましょう。舎内消毒等農場の衛生管理を徹底しましょう。